

[Blank lined area for writing]

朕即位ノ初首トシテ羣臣ヲ存シ五事ヲ以テ神  
 明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ  
 祖宗ノ靈ト羣臣ノカトニ頼リ以テ今日ノ少康  
 ヲ得リ願ニ中興日淺ク由治ノ事當ニ振興更張  
 スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ道ヲ擴充シ茲  
 ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ  
 置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方友ヲ召集シ  
 以テ民情ヲ通シ公益ヲ回リ漸次ニ國家立憲ノ  
 政體ヲ立テ汝衆庶ト保ニ其慶ニ頼ラント欲ス  
 汝衆庶或ハ奮ニ泥ニ故ニ慣ルヲ莫ク又或ハ達  
 ムニ輕ク為ニ急ナルヲ莫ク其レ能ク朕カ旨ヲ  
 體シテ翼賛スル處アレ

大文...



大正四年三月

詔書市布告案  
中村大外史直  
印書局  
ハ付シ印刷シテ  
原案ハ内史本局  
留ム  
ト云フ

大正四年三月五日  
詔書市布告案  
中村大外史直  
印書局  
ハ付シ印刷シテ  
原案ハ内史本局  
留ム  
ト云フ

正院  
元光院  
大慶院  
職制章程案

大正四年三月



Blank table with vertical lines.

正院破制

太政大臣 一員

天皇陛下ヲ輔弼シ立法行政ノ可否ヲ裁替ス  
ルヲ掌ル

左右大臣 各一員 兼任元老院大審院長及

諸事務ヲ議判スルヲ掌ル 太政大臣事務故テ  
此片ハ其代理タルヲ得

奏議 無定員

諸權務ニ參與スルヲ掌ル

内史 土内史 権少内史

詔詰制勅官記位記無記賞牌ヲ掌リ 權務ノ文書ヲ掌

リ 國史ヲ纂修シ及テ各課局ヲ分テ諸務ヲ幹

理ス



大正内務省公文

升史 大内史 権大内史

傳達受付文書記録及支申用度等ノ事ヲ掌リ  
及上各課向ヲ分テ諸務ヲ幹理ス

主記 大主記 権大主記 中主記  
権中主記 少主記

各課ニ属シ書記計算等ノ事ヲ掌ル  
大舎人  
官申分場宿衛雜使ヲ掌ル  
小舎人

官中誌倉ハ務係ヲ掌ル

使部

大内史

内史所及課局

庶務課 本課

履歴課 本課 合ス

内務課

外務課 本課 合ス

財務課

兵務課

法制課

修史局

翻譯局

外史所及課局

記録課

政表課

大正内務省公文











Blank page with vertical lines for text.

元老院章程

第一條 元老院ハ議法友ニシテ凡ソ新法ノ設置

舊法ノ改正又議定ニ及ヒ諸建白ヲ受納ハ奏

スル所ナリ

第二條 議長副議長各一員議員中ニ於テ公選スル

者ナリ

第三條 議友ニ定員

出選スルベシ

第四條 議長副議長議官ニ選任セラルル者ハ

勅任友ニ并リシ者國家ニ功勞アル者政治法

律ハ博識アル者ニ限ルベシ

第五條 議長副議長議友ノ地位ハ一考友タルハ



第六條 議友年齢満三十歳以上タルハニ但初任

友在後滿二年以上ノ者ハ年限ニ在ス

第七條 新法ノ設立舊法ノ改正ニ拘ラス議案ハ

總テ

天皇陛下ヨリ附興セラルヘシ 經令本院ノ批答

ニ出ルト由モ直ニ令議ニ付スヘカラス

第八條 各行政友ニ於テ既定ノ定令規則ニ違背

セル所アラハ之ヲ控問シ其事由ヲ

天皇陛下ニ具奏スルヲ得ト由 臣官員ノ點陽

ヲ議スルヲ許サス

第九條 大臣奏議ハ何時ニテモ其事由ニ拘テ

本院ニ出テ會議ヲ得其途見テ決スルヲ得

ト由 臣決議ノ批答中ニ加ラス

第十條 右省ノ御輔ハ其主任ノ事務ニ付何時

ニテモ本院ヲ出テ其利害ヲ論説シ其可否ヲ

討論シ及衆議ヲ得ト由 臣モ決議ノ批答中

ニ加ハラス

第十一條 書記及批答ヲ置キ院中諸事務ヲ主任

セシムヘシ

第十二條 本院書記官ノ進退ハ議長副議長之ヲ

具狀シテ命ヲ乞フヘシ



第五十八號  
 別紙詔書之通被 仰出候條此旨布告候事  
 明治八年四月十四日  
 太政大臣三條實美

勅諭

Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of the official decree or related administrative notes. The text is written in a cursive style (sōsho) and is contained within a blue-lined rectangular frame.



詔書寫

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ顧ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ共慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、ト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼賛スル所アレ

明治八年四月十四日



正院職制章程

正院職制

太政大臣一員

天皇陛下ヲ輔弼シ立法行政ノ可

否ヲ献替スルヲ掌

左右大臣各一員 兼任元光院大藏院長官

諸棧務ヲ議判スルヲ掌ル 太政大臣

事務放アル中ハ其代理タルヲ得

参議並定員

諸棧務ヲ考粵スルヲ掌ル

内史妨妨史 權大史

詔勅制勅官記位記等ヲ掌リ棧



務ノ文案ヲ草シ國史ヲ纂修シ及  
ヒ各課局ヲ分テ

外史

大外史  
少外史

權大外史  
權少外史

文書記録交付傳達官中用度  
等ノ一ヲ掌リ及ヒ各課局ヲ分テ

務ヲ幹理ス

主記

大主記  
少主記

權大主記  
權少主記

中主記

權中主記

各課局ニ屬シ書記計算等ノ一ヲ掌ル

舍人

大舍人

權大舍人

官中分番宿衛雜使ヲ掌

内史所管課局

内務課

外務課

財務課

法制課

履歷課

兵務課

翻譯局

修史局

外史所管課局

記録課

政表課

用度課

印書局



正院章程

第一條

正院ハ

天皇陛下萬機ヲ總裁シ太政大臣之ヲ  
輔弼シ左右大臣參議之ニ談判參  
喫シテ庶政ヲ統理スル所ナリ

第二條

立法行政ノ事務ヲ區別シ立  
法ニ關スル者ハ之ヲ元老院ノ會議ニ  
付ス

第三條

凡允裁ヲ乞フ奏書ハ之ヲ本  
帖副本ノ二通ニ寫シ本帖ハ參議連印  
大臣鈐印シテ

第四條

凡制度條例及勅旨特例  
ノ事ハ太政大臣ノ奉勅ヲ以テ爲ス

第五條

凡奏任官以上ノ道退黜降  
其具狀ヲ勘シ其履歷ヲ審ミシテ  
後上奏制可ヲ乞フ

第六條

内外吏所屬ノ判任官道退  
ハ大内史之ヲ處置ス



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

四月廿五日 發

元老院職制章程

元老院職制

議長 一頁 年俸六千圓

副議長 一頁 年俸四千八百圓

議官 無定員 年俸四千貳百圓

書記官 大書記官 四等 權大書記官 五等  
少書記官 六等 權少書記官 七等

書記生 大書記生 八等 權大書記生 九等  
中書記生 十等 權中書記生 十等  
少書記生 十一等 權少書記生 十三等

元老院章程

第一條 元老院ハ議法官ニシテ新瀧ノ  
設立舊法ノ改正ヲ議定ス及ヒ諸



建白ヲ受納スル所ナリ

第二條 議長 一員

特選トシ 副議長一員議員ニ於テ公選スル

第三條 議員

特選タル

第四條 議長副議長議員ニ選任

セラル者ハ勅任官ニ昇リシ者國家ニ功勞アル者政治法律ノ學識アル者ニ限ル

第五條 議長副議長議員ノ地位ハ

一等官タル

第六條 議員年齡満二十歳以上

ハ但勅任官ニ在リテ滿二年以上ノ者ハ此限ニ在ス

第七條 新法ノ設立旧法ノ改正

指ハラス 議案ハ

天皇陛下ヨリ附與セラルニ依テ

院ノ起草ニ出ルト雖モ直ニ之ヲ

會議ニ付スヘカラス

第八條 各行政官ニ於テ既定ノ

法令規則ニ違背スル所アル之ヲ

推問シ 其事由ヲ

天皇陛下ニ具奏スルヲ得ルトモ

官負ノ懸河ヲ議スルヲ許サス

第九條 大臣參議ハ何時ニモ其



事由、拘ラス本院ニ出テ會議ヲ

聽キ其旨見テ陳スルヲ得ト云凡決

議ノ負教中ニ加ラス

茅十條 各省ノ卿輔ハ其主任ノ

事ヲ了ス何特ニテモ本院ニ出テ其

利害ヲ辯認シ其可否ヲ討論シ

及ヒ衆議ヲ聽テ得ト云凡決議ノ

負教中ニ加ラス

茅十一條 書記官數負ヲ置テ院中

諸事ヲ分任セムコト

茅十二條 本院書記官ノ進退ハ議

長副議長之ヲ具状シテ命ヲ乞フコト

明治八年四月十四日

檢

中

登

大臣

内史

系議

御布告案

左右院被廢ル事

元光院大審院被置ル事

左院被廢ル事ハ諸廷白敷元光院

可危ル事

式部寮自今宮内省被併スル事